

食品安全委員会に寄せられた主な意見等 (食の安全ダイヤル・食品安全モニター・要望書)

受付期間：平成16年10月15日～平成17年2月18日

	食の安全ダイヤル	食品安全モニター	要望書
受付件数	80	47	119

受付件数は、それぞれで受け付けたBSE関係の意見、要望、情報提供、質問の合計

それぞれで受け付けた意見等については、次のとおり。

1. 食の安全ダイヤル

1) 全頭検査見直しに関する主な意見

- ・全頭検査見直しに反対する。20ヶ月以下の牛がこれから発症するかもしれないから。
- ・次世代のために、安心して牛肉が食べられるように全頭検査は続けるべきだ。
- ・全頭検査の合理性を科学的に説明希望、過剰な心配が無駄を生んでいる。
- ・20ヶ月月齢とSRM除去で十分だと感じています。

2) 米国産牛肉輸入再開に関する主な意見

- ・米国の牛肉の管理はとても杜撰であると言われているのに、なぜ輸入を急ごうとするのか。十分議論を重ねて見切り発車は絶対にやめてほしい。
- ・多くの国民が米国産牛肉は食べたくないと思っているとのアンケートもある。アメリカの言いなりになるのか。
- ・焼肉・精肉業を営んでいるが、同業者が倒産の危機に瀕している。米国産牛肉の早期輸入再開を希望する。消費者の選択に任せるべきだ。
- ・以前のように手ごろな価格で牛丼を食べたいと思っている消費者は多いのではないか。

3) その他の主な意見

- ・「VCJD」と「SRM」の省略しない綴りを教えてください。
- ・BSE検査において、異常プリオンたんぱく質の有無を調べる牛の延髄門部とは、どこにある部位なのか、教えてください。
- ・日本では、どれぐらいの月齢で牛がと畜されるのが一般的なのか教えてください。
- ・日本で確認されたBSE感染牛について、月齢と品種など、その概要について教えてください。

- ・21,23 ヶ月齢のBSE感染牛については、異常プリオンの検出量が微量であったとされるが、どの程度の量が教えてください。
- ・「中間とりまとめ」に日本人の9割はプリオンたんぱく質遺伝子がM/M型であると記載されていましたが、このこととvCJDの感染リスクの関連性について教えてください。
- ・「中間とりまとめ」にある「交差感染」についてわかりやすく教えてください。
- ・「中間とりまとめ」において、vCJD発生リスクの推定が行われていますが、その推定の考え方について教えてください。

2. 食品安全モニター

1) 全頭検査見直しに関する主な意見

- ・「全頭検査」から「20ヶ月以下若齢牛の検査除外」の諮問に関しては、科学的根拠を公開するとともに、安心という言葉がいかにも無駄や誤った風評をもたらし、国家的損失を招いているかを世論に理解させるような広範囲かつ高次元の答申を期待します。
- ・全頭検査については、消費者が科学的に理解でき、納得するまで多角的に研究を進め、あわてず時間をかけ、不安点をなくして緩和に踏み切って欲しい。
- ・自治体による検査の継続が可能になったことを歓迎し、この間に研究が進み、検査法の改良がなされることを期待している。
- ・日本では全頭検査がBSE対策にとって一番有効であると信じている消費者が多い中、もう一度原点に戻ってBSEの正しい知識等をテレビを通して国民に伝えてほしい。
- ・20ヶ月以下の牛の検査を行わないという判断はとても不安だ。消費者の不安を除くには、これからも全頭検査をすべきだと思います。

2) 米国産牛肉輸入再開に関する主な意見

- ・米国産牛肉輸入禁止処置によりかえって食用肉全体への危険性が増しているため、元々安全性の高い米国産牛肉の輸入再開に向けていくコンセンサスが必要だと思います。
- ・米国産牛の輸入再開に向けての科学的な安全の評価を求める。
BSE騒動は情報不足と誤情報ないし情報の遅れが原因とみる。輸入(米国産牛肉)再開は十分な説明なしでは、パニックの再現もある。説明を十分にしなければならない。
- ・月齢判定と紙だけの証明で大丈夫なのでしょうか。全頭検査をきちんとしないと不安はなくなりません。じっくり考えてほしいと思います。

3) その他の主な意見

- ・BSEに関する意見交換会に出席しました。現時点でのBSEについて今までより理解できたと思います。今後このようなことがもっと一般的になるよう各メディアを最大限に利用して事実の周知を行う必要性を感じました。

- ・ B S E 感染牛の「食肉」部分から、異常プリオンが見つかりました。安全性が確認できるまで、牛肉の流通を止めてください。

3 . 要望書

1) 全頭検査見直しに関する主な意見

- ・ 科学的に未解明な部分が多い。
- ・ 検査月齢見直しではなく、検査精度の向上を目指すべき。
- ・ 国民が納得していない。
- ・ 専門家によれば、最前の対策は S R M 除去である。
- ・ リスクコミュニケーションで B S E リスクの理解は深まってきている。

2) 米国産牛肉輸入再開に関する主な意見

- ・ 米国の対策はずさんである。(検査頭数の少なさ、月齢判定の方法など)
- ・ 政治的な配慮で、判断が歪められてはならない。
- ・ 輸入停止による経済的損失が大きい。

3) その他の主な意見

- ・ 「我が国における B S E 対策に係る食品健康影響評価 (座長・座長代理案)」についての具体的意見 (ピッシング廃止、背割り前の脊髄除去などに向けての対策要請)